

## 第5回長野県環境審議会廃棄物専門委員会 議事録

1 日 時 令和8年1月21日(水) 午後1時00分～2時00分

2 場 所 長野県庁議会棟 第1特別会議室

3 出席者

委 員 愛田真也委員、秋葉芳江委員、新井あゆみ委員、岩波美雪委員、梶田能孝委員、小松一弘委員、中村昌貴委員、中村幸宏委員

環境部 環境部長 小林真人、資源循環推進課長 新井隆司、企画幹兼課長補佐 中谷秀幸、企画幹兼廃棄物対策主幹 胡桃澤博司、廃棄物政策係長 田中陽如、廃棄物審査係長 高橋晴彦、主任廃棄物監視員 櫻井史郎

4 議事録

(司会：中谷企画幹兼課長補佐)

定刻となりましたので、ただいまから、第5回長野県環境審議会廃棄物専門委員会を開会いたします。本日の司会を務めさせていただきます、資源循環推進課企画幹兼課長補佐の中谷でございます。よろしくお願いいたします。

本日遠藤委員は御都合により御欠席されていますので御報告申し上げます。また梶田委員はまもなくお越しになると思います。

現時点で本日の専門委員会は、委員総数9名のうち出席委員は7名で、過半数の御出席をいただいておりますので、長野県環境審議会廃棄物専門委員会設置要綱第4の第2項の規定により会議が成立しておりますことを御報告いたします。

それでは早速ですが、これより小松委員長に議事の進行をお願いしたいと思います。小松委員長、よろしくお願いいたします。

(小松委員長)

それでは、ただいまから審議に入ります。

本日の専門委員会ですが、2月9日開催の環境審議会に、専門委員会として長野県廃棄物処理計画(第6期)最終報告案を提出するための最終審議を行います。

本日の議事進行ですが、資料1～6まで一括して、事務局から説明をお願いします。その後、委員の皆様から御質問御意見を伺います。

それでは、事務局から資料1から順次説明をお願いします。

(事務局：田中係長から資料説明)

資料1 第4回廃棄物専門委員会における委員の主な発言等について

資料2 中間報告に関する環境審議会委員からの意見について

資料3 市町村への意見照会の結果について

資料4 パブリックコメントの結果について

資料5 長野県廃棄物処理計画(第6期)の最終報告案

## 資料6 長野県廃棄物処理計画（第6期）最終報告案のポイント

### （小松委員長）

ありがとうございました。

それでは御質問、御意見の時間をとります。何かありましたら順番にかかわらず発言願います。何かございますでしょうか。

< 梶田委員到着 >

### （秋葉委員）

ここまでの作成、修正等を進めていただいております。循環経済の推進を第4章第1節に位置を動かしていただいております。とても読みやすくなったと思います。第4章第1節のタイトルについて提案ですが、こうやって見てみますと対応する日本語とカタカナといえますか、その概念をわかりやすく第2節以降に表示をしていただいております。そういう意味で第1節のタイトルを、「循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行の推進」というようにサーキュラーエコノミーという単語を添えられてはいかがかなと思います。同様に、この資料6でお示しいただいている概要でも、第4章第1節を「循環経済（サーキュラーエコノミー）への移行の推進」として、斬としていただくとよろしいのではないかと思います。

その意図は、循環経済と言われたときに県民の方々が一般的な用語として理解をしようと、サーキュラーエコノミーという循環させるということの新しい概念、ヨーロッパでも共有されている新しい概念というふうにこの単語として伝わっていく方が、小学校、中学校、高等学校でいろいろやっている教育とも繋がっていきますし、いいのではないのかなと思っております。

### （小松委員長）

ありがとうございました。

### （新井課長）

御意見ありがとうございます。一通り本文を見渡して可能なところにはそういったサーキュラーエコノミーという表現を入れられるように修正してまいりたいと思います。

### （小松委員長）

サーキュラーエコノミーの方が何となく一般的によく使われている気がします。

他にございますでしょうか。

### （新井委員）

コラムがこういった形で分かりやすく出てくるようになったのがすごく良かったと思っています。ただ85ページにある食べ残し持ち帰りのところですが、先日、食の安全の会議に

出ささせていただきましたが、やはり食中毒の問題がすごく出ているという話が出ました。食べ残しの持ち帰りについては、持ち帰る人の責任になるけれども、事業者にも責任が問われる場合があるとおっしゃっていました。事業者にも、どれは持ち帰ることができる、どういう形で持ち帰ることができる、持ち帰ったらどうしてもらおうというのを、しっかりと店の考え方を示していくように情報提供してほしいと思います。

それから、サステナブルファッションのコラムですが、一体どういうところで購入すればいいのかがちょっと分かりにくいかなと思いましたが、もう少し分かりやすい発信があるといいと思いました。

**(小松委員長)**

ありがとうございました。

**(新井課長)**

食べ残しについてもスペースもありますし、もう少しガイドラインを具体的に分かるよう形で書きたいと思います。サステナブルファッションについては検討させていただければと思います。

**(小松委員長)**

他にございますでしょうか。

**(中村(幸)委員)**

最終報告案ということで、ここまでに4回、色々発言させていただいたものをうまく反映されていて、こういったものを作ることは本当に大変だと思いますので、敬意を表したいと思います。

この内容云々はこれでいいかと思いますが、今さらこういうことを言うと、ということを一言発言したいと思うんですが、この題名が「長野県廃棄物処理計画」ということで、これは何か県の規定によって、こういった計画、こういうネーミングの計画を策定するということになっていると思いますが、実際、内容は廃棄物処理というよりも、資源循環の推進というところがメインになってきているということと、今、国とか全てにおいて廃棄物処理というよりも資源循環という呼び方に大分移行しているということもあるので、これは規定がそのようになっているので簡単に変えるということにはできないと思いますが、今回は第6期ですので、第7期に向けて廃棄物処理計画ではないネーミング、これからのように循環型社会を作っていくために、その中での廃棄物処理というような位置付けで変えていくことが今後検討できるかどうかというところで、色々規定とか諸々変えるようになると思いますが、そういったことができるようであれば、今後に向けて検討してもらえたらいいのではないかと思います、今回の最後のところで述べさせていただきたいなと思います。

**(新井課長)**

計画の名称につきましては、確か前回も少し議論があったかと思います。他県では廃棄物処理計画ではない、循環といった言葉を使っている計画もございます。内部で検討する中では、今回はやはり「廃棄物処理計画」が分かりやすいのではないかとということで、このような計画名にさせていただいておりますけれども、他の都道府県の状況を見ると、循環型社会とか、そういった名称を使っているところもございますので、また今後に向けては検討させていただきたいと思います。

#### (小林環境部長)

ありがとうございます。その通りだなと思っています。今回目玉で、サーキュラーエコノミーを一番手に持ってきたことでもありますので、この際変えてもいいかなと思っています。実は温暖化の関係では、私どもは「ゼロカーボン戦略」という計画を持っていますが、これは法律では「地球温暖化防止推進計画」という計画ですけれども、かつては環境エネルギー計画、今はゼロカーボン戦略というネーミングになっておりまして、それが法律上のこの計画に当たるということを計画の中で明記しておりますので、そういうことでいいのかなと思っています。廃棄物の課は、かつては廃棄物対策課でしたけれど、資源循環推進課という名前になっています。まさにおっしゃる通りだと思いますので、計画自体も名前を変える方向で考えたいと、最終決定のときにはそれを今の御意見を踏まえながら検討したいと思っています。次期計画ではなくて、今回から変える方向で考えたいと思いますので、よろしくお願いします。

#### (小松委員長)

法律の名前も循環型社会形成推進基本法という名前になっていますので、その法律の名前に合わせるというような形の方がいいかなと思います。

他にございますでしょうか。

#### (梶田委員)

コラムなど、非常に見やすさを工夫していただいたと思います。また、様々な意見も取り入れながら取り組んでいくという視点が見えるものになったという気がしておりまして、内容につきましては云々ということでもないのかなと思っています。

一点、6ページの下に、「7 計画の進捗管理」という項目ですけれども、これをどう実現していくかということが重要だと思いますので、もう少し具体的なものがここに示してあってもいいかなと思います。各章をそれぞれ見ていけば具体的な方法もあるのかもしれませんが、例えば、より具体的にはこういうことを各章に示してあります、といったことを含めてでもいいですが、「頑張っていきます」に留まらないで、そういう表現があってもいいのかなと思いました。

#### (新井課長)

他の計画等を見ながら検討させていただければと思います。

**(小松委員長)**

他にございますでしょうか。

私の方から細かいところですけども、今回結構コラムや用語の定義のようなものが所々に挿入されて読みやすくなるように工夫されていると思いますが、この61ページから急に指マークのついた挿入部分が出てきます。こういった挿入部があるのが第4章第4節だけということで少し違和感があるところですよ。例えば42ページのように四角で囲んで黄色いマークをしているような、こういうものに統一した方がいいのかなと思いました。

それから60ページの(1)の下の方ですが、「循環経済への移行を進め、循環型社会を形成するため、事業者、国民、行政・・・」となっています。これは県民ではないかなと思いました。いかがでしょうか。

**(田中係長)**

御指摘ありがとうございます。60ページの2の(1)の一行目の「国民」とあるところですが、これは法律の説明をする流れで「国民」と記載しているところだと思いますが、これは長野県の計画として県民でも差支えないと思いますので、修正させていただきたいと思います。

**(小松委員長)**

細かい文言の修正が必要なところは、まとめて後程お送りするというのでよろしいでしょうか。

他にございますでしょうか。

**(中村(幸)委員)**

これはあくまで計画ということで、今後5年間の基本的な方針になると思うのですが、それでもやはり5年間の間に新しい法律もできるとは思いますし、廃掃法もまもなく改正されるというようなこともありますので、計画を途中で変える云々ということでは当然ないですが、ただやはり全ては法律に基づいて、こういったものへの対応をしていくと思いますので、特にこの5年間、色々と新たな法律ができそうな機会になると思いますので、今後運用する上で、そういったものに速やかに、また的確に対応していけるように、それはお願いということでさせてもらいたいと思いますので、よろしくお願ひします。

**(新井課長)**

今の中村委員の御意見につきましては、第2回の専門委員会で秋葉委員から同様の御意見があったかと思ひます。計画本文の6ページの一番下に、計画にとらわれずに、この計画期間中に社会情勢が変化したり、法の整備がされた場合は、柔軟かつ適切に対応していくという文言を入れさせていただきました。今、廃掃法の改正だとか、太陽光のリサイクル法案の検討がされておりますので、そういったものが制定なり改正された場合は、適切に対応してまいりたいと考えております。

**(秋葉委員)**

先程コラムのお話があったところで気がついて、これも御提案なのですが、今回のコラムは、とても親しみやすく良い取り組みだと思います。例えば、エンカルのところで、12月に表彰式があった信州 SDGs アワードの事例も記載されているところですが、例えば、環境省・農林水産省・消費者庁と一緒にやっているサステナアワードという、1年に一度やるアワードがございます。実は長野県内も過去に少なくとも二つ受賞されている組織であったり団体であったりがあります。ですので、過去の受賞者をお調べいただいて、コラムでフィットするようなどころがあればそういうところも少し書き加えていただくと、より県民の皆様にとっても親しみやすく、また既にそういう先行している取組があるんだなということで、信州 SDGs アワードとあわせて広がっていくのではないのかなと思います。ちなみに今年度も昨日か一昨日かに受賞者が発表されていますが、今年度はどうだったか、私は審査に関わっているもので情報がございましたので、提案として申し上げます。

**(小松委員長)**

ありがとうございます。コラムの中に入れた方がいいですか。

**(秋葉委員)**

分厚く書いてあるコラムと行数が少なめのコラムがありましたので、例えばそういうところを加筆するのに使えるのであれば、そういう既にアワードを取られているような方々の例を書き込めると良いのかなと思いましたので、個々の固有名詞をここでは挙げませんが、使えそうなものがあれば参照していただければ良いのではないかという御提案です。

**(小松委員長)**

他にございますでしょうか。

先程、計画は計画として、これから柔軟に対応していただきたいという話がありましたが、資料3で少し気になる場所がありまして、市町村への意見照会の結果の中で、8番目のところです。一般廃棄物最終処分場の建設について、これは市町村の責務とされていますが、県主導による建設を検討いただきたいというものがあり、そちらに対しての県の考え方を示されています。おそらく色々規則に則って市町村がされることだと思いますが、この部分の記述には何か非常に切実な声を感じます。県として検討するという余地はあるのでしょうか。

**(新井課長)**

一般廃棄物の処理に関しては、廃棄物処理法で規定されておりまして、現段階ではまだ具体的に検討する段階ではないかなというふうに思っております。ただし、市町村とは、常々一般廃棄物処理に関しては、意見交換をしながら減量や適正処理をどうやって進めていくかということころは、しっかりと意見交換していきたいとは思っております。

**(小松委員長)**

主導というのは難しくても間接的にサポートするというようなことですね。

他にございますでしょうか。

大体出揃ったところでしょうか。廃棄物処理計画の名前が変わるという話もありますけれども、この最終報告案について、皆さんに御意見をいただいたということでもよろしいでしょうか。

それでは、本日審議した内容を踏まえ、環境審議会への最終報告案の作成を、委員長に一任という形をとらせていただいてもよろしいでしょうか。

< 異議なし >

**(小松委員長)**

ありがとうございます。

最後に、今後のスケジュールについて事務局からお願いします。

**(田中係長)**

今後のスケジュールについて御説明をさせていただきます。2月9日に開催予定の環境審議会に答申案として報告をさせていただきます。その後、環境審議会から県知事あてに計画案の答申を行う予定になります。この答申を受けまして、3月に計画の決定・公表となる予定でございます。

**(小松委員長)**

専門委員会は本日で最後になりますので、最後にお一人ずつ一言ご感想をいただければと思います。

愛田委員から順番にお願いいたします。

**(愛田委員)**

半年間どうもありがとうございました。全然関わったことの無いというか、具体的にこういったところにお呼びいただいて、私自身ものすごく勉強になりましたので、企業活動を行っている中で、営利活動でございますけれども、少しでも環境に役立つ、意識した事業計画、会社としても行えるように頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。

**(新井委員)**

皆さんありがとうございました。私も特に専門的に何かをやっているわけではないので、有効な意見を全く言えていないとは思いますが、これからも消費者の一人としても、こういった食品ロスとか廃棄物についてまた勉強しつつ、一県民として協力していきたいと思えます。ありがとうございました。

**(梶田委員)**

どうもありがとうございました。私自身も技術的なこととか、それぞれのものについて詳しいわけではないので、皆さんの色々専門的な見地で言われた意見もあって勉強になったと思います。またこういうものを作る大変さもあったと思いますが、そういった中で、県の皆さんも含めて、それぞれの意見を真摯に取り入れながら作っていかうという姿勢も見させていただいたことも非常にいい勉強になったと思っています。とてもいい経験をさせていただいたと個人的には思っております。皆さんに感謝したいと思います。ありがとうございました。

**(中村(幸)委員)**

約半年間、大変お世話になりました。私ども協会も実際直接関わっている立場でございますので、今回こういう会議に出させていただいて、循環経済への移行というのは国家戦略として今進められているものを、長野県であったり、市町村、そういったことを含めて、これから全県民を挙げてやっていかなければいけないだろうということを改めて私も感じることができましたので、今後できる限りの協力、そして自らもそういったことを推進していきたいと思ったので今後ともよろしくお願いをしたいと思います。

**(秋葉委員)**

お世話になりました。短い期間でこのように、しかも対策をしていくというのはとても大変だったと思いますけれども、各方面からの意見を取り入れて良いものに仕上げさせていただいたと思います。とりわけ私自身サステナブルな経営という観点ですずっとやってきておりますので、今回サーキュラーエコノミー、循環経済という方向を大きく長野県として打ち出せる計画になっているというのは、とても良い方向を示せているのではないかと思います。そういう機会に関わらせていただいたことをとてもありがたく思っております。委員長には本当にありがとうございました。委員の皆様もありがとうございました。そして仕上げさせていただいた職員の皆様、ありがとうございました。

**(岩波委員)**

半年間本当に大変お世話になりました。ありがとうございました。私自身が行政職員として、環境や廃棄物の関係の政策に関わることは1年目でして、本当に勉強をさせていただいたと思っております。その廃棄物や関係の事務に関する勉強にもなりましたけれども、行政職員として計画を作るといふことに携わらせていただいて、そちらの方の勉強もすごくさせていただいたと思っております。意見を言わせていただいて、皆さんの意見も段階を追うごとに反映させて計画ができているということで、今95ページを見ておりますが、リチウムイオン電池について非常にいいコラムで、私達も住民の方に御説明できるし、行政職員も勉強になる、そういうようなページになったなと思って改めて素晴らしい計画になったと思っております。私達の役割は、この計画を推進して、最初の会議、新井委員かと思っておりますけど、長

野県は、皆さん3Rだよ、というものが、5年後には4Rだよ、という意識が浸透するように市町村として努めてまいりたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。ありがとうございました。

#### (中村(昌)委員)

ありがとうございました。私も食品会社の一人として今回参加させていただいて、企業の中で事業系の廃棄物をいかに削減することができるか、リサイクルですとか再利用また資源として活用する方法ということで考えながら業務をしてきたわけですが、こういったところに参加させていただいて、行政の方、県の方、国として、どんなことに取り組みられているのか、どんなことを取り組もうとしているのかということが非常に知る機会ができて、私自身もここに参加することによって非常に勉強をさせられたなというところでございます。また今回、意見の中に入っていました、これからの子どもたちにどう伝えていくか、どうしていくかというところが、結構重要だと思っておりましたが、私の子ども4年生の子が一人いますが、冬休みの宿題でこの資源、廃棄物に関する課題がありました。それを見たときに、リデュース、リユース、リサイクル、ここまでは私も一般的に子どもたちも学んでいるんだなと思ったんですけども、そこにリプレースが入っていました。子どもたちの教育もここまで進んできている、子どもたちの意識ってここまで進んできているんだなと思いました。これが進んでいるというのは、皆様、県や国の働きによって、次の未来の子どもたちが、循環型社会に向き合えるいい機会になっているんだなと思いましたので、この5か年計画を多くの方に見ていただいて、また進めていただけるというところを願い、今回ありがとうございました。

#### (小松委員長)

半年間本当にありがとうございました。特に資源循環推進課をはじめとする行政側の皆様、委員の皆様本当にありがとうございました。私、実は専門が水道とか下水道とか、もっと言うとその水道の水源の湖の水質の研究とかを普段やっております、廃棄物の研究は特に何かしているわけではないんです。ただ、同じ環境工学分野ですので、新しい情報をどんどん入れていかなければいけないという点は共通しています。今回機会を持って、この廃棄物分野の最新の情報を色々と私自身も調べたということもありまして、手に入った情報はこれから授業とかに活かせるなど考えているところであります。それからちょうど今、うちの大学のほうでも卒論、修論のシーズンで、文章づくりの大変さをひしひしと感じているところです。今回は、委員長の立場として出来上がった文章に対して色々と意見するというだけのところだけだったのですが、実際こういう100ページにわたる文章を作るのは非常に大変だということ、生みの苦しみのようなことも時節柄よく分かっております。大変御苦労されて作られたのではないかなと思います。資源循環推進課の皆様には敬意を表したいと思います。それから今まで県の委員会の委員はやったことはありましたが今回委員長は初めてでした。今回、心掛けたことがありまして、皆様が少しでも疑問に思っていることをできるだけ引き出せるようにできればいいかなと考えておりました。色々な分野、立場の方がおられるので、その方々

ならではの意見を引き出せるようにしたつもりですが、果たしてそれが十分だったかどうか。いずれにしても、皆様の多彩な意見をお聞きすることはできたと思いますし、大変勉強になりましたので、委員の皆様におかれましても心より感謝申し上げます。これからどこかの機会でもたお会いすることがあるかと思しますので、引き続きよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

**(小松委員長)**

それでは、以上で本日予定しておりました議事内容は全て終了いたしました。皆様の御協力、大変ありがとうございました。

以上をもちまして、議長の務めを終わらせていただきます。

**(司会：中谷企画幹兼課長補佐)**

小松委員長様、委員の皆様ありがとうございました。

ここで小林環境部長から御挨拶申し上げます。

**(小林環境部長)**

小松委員長をはじめとしまして、この廃棄物専門委員会の皆様方におかれましては、5回にわたりまして熱心な御議論をいただき、心より感謝申し上げますところでございます。

様々な御意見を頂戴しました。大きな政策の方向性を問う御意見から、いかに県民の皆様が計画自体を分かってもらおうかということ細部にわたる御指摘もいただきまして、我々としても大変ありがたい御意見を頂戴したと思うところでございます。本当に心より感謝申し上げますところでございます。

本日の議論でも様々な大きなところから細かいところまで御意見頂戴しました。委員長には先ほど一般廃棄物の最終処分場のお話も頂戴をしたところでございますが、先般、政府では地方制度調査会というものが開かれております。我々、地制調と呼びますけれども、現在その地制調には私どもの知事の阿部が全国知事会の会長として出席をしております。その中で今回テーマになったのは、市町村が今、人手不足で業務が遂行できなくなっている。様々な分野でそういう状況にあるということで、政府としては市町村の業務を都道府県に移管することを、あるいは色々やり方はありますが、都道府県が代行業務をやるとかですね。実際これまで長野県でもやったことがあります。そういう議論が開始されました。実は人手不足は市町村だけではございませんで、一般の民間の事業者の皆様のところでも人手不足の問題が起きていると思っておりますが、この都道府県でもですね、そして我が長野県でも人手が足りない状況でございます。欠員だらけという状況に陥っているところでございます。その欠員を会計年度任用職員という非常勤の職員で何とか埋めてやっているという状況ではあるのですけれども、ただ、市町村の方は、とりわけ技術系の職員が足りないということで、長野県は比較的市町村よりは技術系の職員が来てくれるのですが、今、市町村ではそういう状況にあるということで、そうした業務を都道府県が代行してやるということも議論のテーマになっているという状況にあるところでございます。そうした中で、法律で市町村の業務、都道

府県の業務と決まってるわけですが、なかなか難しいような市町村に関しては、とりわけ小規模の市町村に関しては、都道府県が業務をやるということもあり得ないわけではない状況になってるというところがございます。一つあるとすれば、長野県の木曾地域ですが、木曾は中心市がございません。町村のみでやっているところで今非常に高齢化が激しい状況で業務もなかなかできないという状況で、今回、長野県は木曾地域の自治体で広域連合を作ってるわけですが、そこに長野県も一緒に加入するという判断をしまして、木曾広域連合に長野県が入って主導していくというような政策の方向に舵を切ったところがございます。ですから先ほどの話で、原則は市町村の業務、都道府県の業務は決まってるわけですが、今後の動向次第あるいはそれぞれの市町村の状況次第で、県が出ていかなければならない場面というのも出てくるのかなと考えているところがございます。そうしたことも念頭に置きながら今後業務を進めてまいりたいと思っております。

それから今回御案内のとおり衆院選が実施されるということになりましたが、昨年、一昨年の選挙のときから、私は環境部長として危惧するところとしては、こういう選挙のときに環境がテーマになっておりません。やはり今は物価高騰対策、経済対策というのが中心に据えられて、環境政策というのは二の次、三の次ということで優先順位としては下位の方向にあると思っております。ましてや環境政策に対してはネガティブな主張をされる一部の勢力も多く出てきているということをご承知してございまして、世界的にトランプ政権の動向も含めまして、今後、環境政策に関して私は動向として非常に危機感を覚えているところがございます。そうした中で今回の私どもの廃棄物の計画に関して 30 年前を思い起こしますと、適正処理が基本的な中心にあったわけがございます。いかに適正に処理して最終処分まで持っていくかというのが大きなテーマであったのですが、今回御議論いただきましたとおり、循環経済、サーキュラーエコノミーというものを中心に据えるべきだというお話もいただきまして、計画もそうしたところがございます。また昨今のテーマの食品ロス、災害廃棄物、リチウムイオン電池、プラスチック、太陽光パネルと様々最近の課題に関して、この計画に盛り込むことができたと思っております。これも委員長をはじめとする委員の皆様のお忙しい中、御都合をつけていただいて、様々な御意見をいただいたことによるものと、本当に深く御礼を申し上げます。委員の皆様のご引き継ぎの御健勝御多幸を心より御祈念申し上げたいと思っております。今後、計画ができて運用に当たるときにも、委員の皆様から何か御意見、御苦言があれば、またお寄せいただければと思っておりますので、今後も引き続き御指導のほどよろしくお願いしたいと思います。大変長期間にわたる委員としてのお仕事ありがとうございました。

**(司会：中谷企画幹兼課長補佐)**

事務連絡ですが、旅費等精算用経路届につきまして、前回の経路と異なる場合は来週水曜日一週間後を目途に事務局へメールで御提出ください。

以上をもちまして、最終の委員会を閉会させていただきます。

本当にありがとうございました。